

# あの頃に戻れたら…

少子高齢化によって、若者・子供の数が激減している。  
この問題は日本が抱える問題であり、特にここ九州の子供の減数は著しい。  
それに伴い、各地方で小中学校の統廃合が行われている。

複数の学校が一つになることで必然的に使われなくなった学校、  
いわゆる廃校舎が残ってしまう。  
現在では、廃校舎を、社会福祉や環境保全の研究所など、新たな役割を担い、  
生まれ変わっている校舎も多数存在している。  
そこで、廃校舎の利用の一つの案として、提案する。

# 学生時代にタイムスリップ

一泊二日の学校生活。大人が主役の学校を開校！  
もちろん親子でも夫婦でも、誰でも入学可能。  
学生生活は、勉強に部活、初恋と毎日が楽しくて大忙し。  
何もかもが新鮮で、ひたすら遊び尽くしたあの頃に戻れたら…

廃校舎を他の団体と時間を分けて共有。  
主に、土曜日曜日などの祝日に活動を行う。  
平日は他の団体が校舎を運営することになる。

## スケジュール

### 一日目

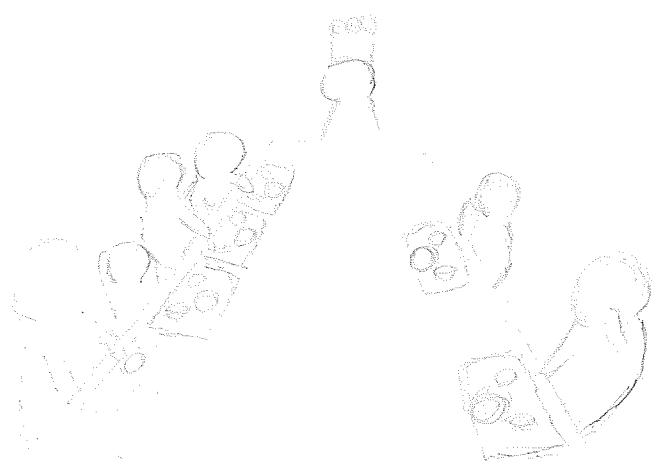
職員によるあいさつ運動⇒全校朝会⇒朝の会⇒1時間目～4時間目授業⇒給食⇒昼休み⇒5時間目⇒掃除⇒自由時間⇒夕食⇒企画⇒就寝

### 二日目

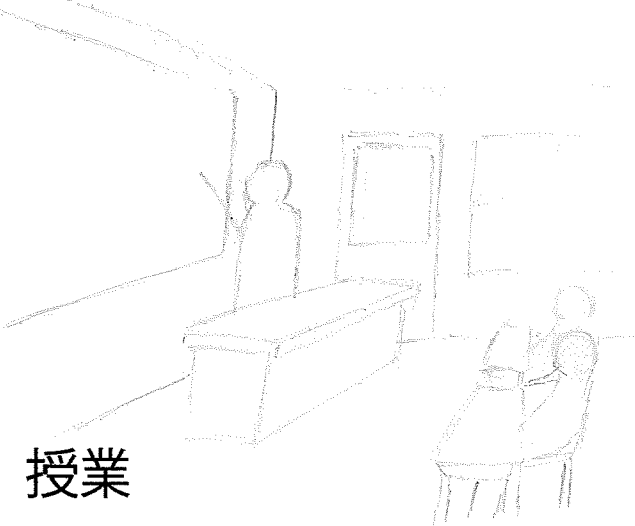
ラジオ体操⇒全校朝会⇒テスト⇒給食⇒自由時間⇒帰りの会

プログラムの一つひとつはたいした事ではない。しかし、当時を忘れかけた大人たちからすると、その一つひとつが懐かしく、思い出が蘇ってしまう。そんな思い出が詰まった校舎を簡単に取り壊したり、放置したままでいいのだろうか。母校が無くなって嬉しいとおもう人は誰ひとりとしていない。楽しい思い出は、時に心の安らぎとなる。思い出をなぞり、自分を見つめ直し、地域・町を見直すきっかけを提供する。これからの地域・町の在り方、子供たちの未来を守らなければならない。

## 給食



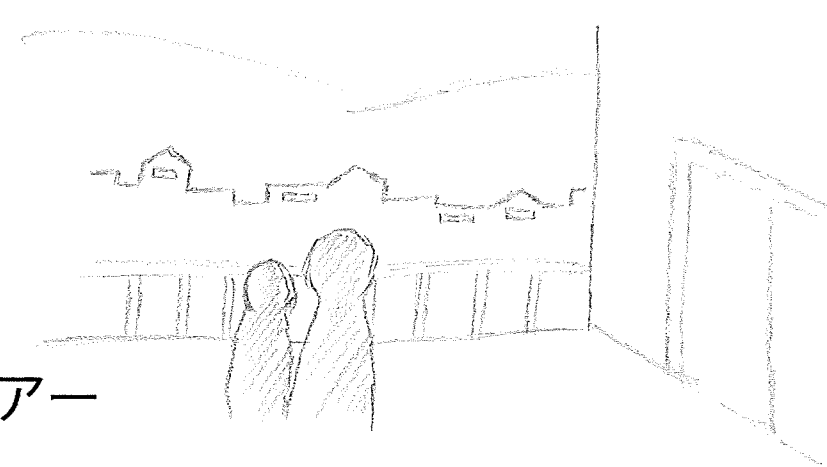
- 大人からすると格安で栄養豊富なランチ。今となっては給食でしかたべることがなかった揚げパンなど、懐かしい味を堪能できる。
- 給食センターの職員の方にも来て頂き、お母様方に料理のコツを伝授してもらおう。



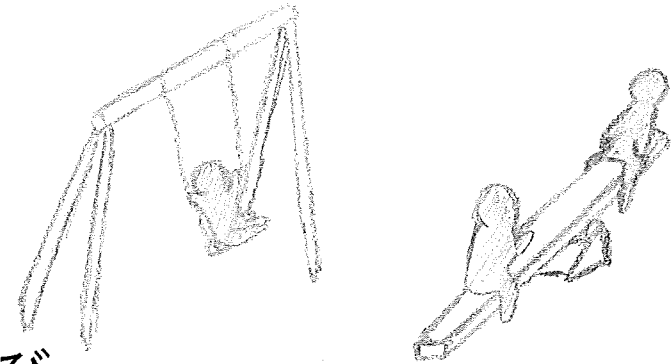
## 授業

- 現在と20年前では“歴史”や“言葉”は大きく変わってしまった。親は“現在”を知り、子は“過去”を知ることで互いを尊重しあえる。
- 国語・理科・算数・社会・英語はもちろん、普段の日常では滅多に触れることが少ない音楽や体育、親子・他人と一緒に考える道德の授業を行う。

## 校内探検ツアー



- 学生時代、誰しものが経験をもち、疑問を抱いたであろう“この部屋は何？意外にも知らない部屋は多くあるのではないだろうか。校内を隅から隅まで歩き回り、ちょっとした冒険を届けたい。
- 決して立ち入ることが許されなかった屋上。興奮とともに、高台から街を見渡してほしい。



## 遊び

- 大人になると遊具で遊ぶことに抵抗を感じるだろう。しかし、この時だけは昔のように思いっきり遊んでほしい。
- 時代の変化とともに、子供の外遊び離れ、ネット依存の危機に陥った今。大人が子供に対して、外で遊ぶ楽しさを教え、その環境をつくりださなければならぬ。外で遊ぶ子供が減ったため、公園が徐々に姿を消している。それで本当にいいのだろうか…。